

# 一人ひとりに寄り添った個別ケア

介護老人保健施設はまかぜ入所 Bチーム

○鷺見寿子 小池葉子 手島恵美子 勝部風河 高見恵太  
荒木俊介 松本直子 西山恵美 松本利香



## はじめに

寝たきりの利用者は居室で過ごす時間が多く十分にレクリエーション等の活動が出来ていない現状がある。



信頼感や安心感をもたらすと言われている  
ハンドマッサージを取り入れると同時に、  
個別ケアの時間を設けることで、安らぎや  
日々の楽しみになるのではないかと考え取  
り組んだ事例を報告する。



# 実施内容

期間：令和4年9月～12月

対象：寝たきりの利用者4名

方法：毎週水曜日、木曜日、日曜日の週3回で居室にて5分～10分で実施する。

- ①保湿クリームを使用してのハンドマッサージ
- ②本人の好きな音楽や動画を鑑賞してもらう
- ③話しかけを行うと同時に発語の促し



# 事例

A氏 80代 女性

要介護5 HDS-R 0点

障害高齢者の日常生活自立度 C2

レクリエーション時は共用スペースに出ているが、反応や表情も乏しい。  
コロナ禍でリモート面会しか出来ない状況の中、笑顔や楽しみも減っている。



## 結果① ハンドマッサージ

ハンドマッサージ開始直後は手に力が入っていることが多かった



次第に受け入れられ、回数を重ねていくとマッサージ開始前に自ら手を出される動作が見られた。

日によって痛みの訴えやハンドマッサージの拒否があり、その時は話しかけのみを行なった。



## 結果② 音楽、動画鑑賞

童謡や演歌、皇室の動画鑑賞をおこなった。  
また、童謡を職員と一緒に唄うよう勧めると最初は  
渋々唄っていた。



何度か唄うことを勧めていくうちしっかりと唄える  
ことが出来るようになった。  
それまで無表情なことが多かったが、  
笑顔が見られるようになった。



## 結果③ 話かけと発語の促し

以前はケア開始時に挨拶しても、頷くか手を上げるくらいだった。



職員に対し「おはよう」と挨拶されることや、単語での発語が増えて行った。  
活動開始時の9月から活動後の12月を比較すると50%発語の増加が見られた。





## 考察

ハンドマッサージの取り組み自体がA氏にとって有効的だったのかは分からなかった。しかし歌を聞いたり唄ったりすることで、不安や緊張をなだめたり脳の活性化の効果があることから、ケア中の笑顔や発語に繋がったのではないかと考えた。



## まとめ

今回の活動を通して、日々の生活の中でのレクリエーションの重要性を再確認する機会になった。

寝たきりの利用者に対してどのような余暇活動を提供していくのか、一人ひとりの気持ちに寄り添い少しでも笑顔が増えるにはどうしたらいいのかを今後も職員全員で考え実行していきたい。

